



SPE 日本支部 Annual News Letter

84 countries and 22,500+ members strong,
we unite plastics professionals worldwide
helping them succeed and strengthening their skills
through networking, events, training, and knowledge sharing.

SPE 日本支部長ご挨拶

プラスチック資源循環の重要性

プラスチックは数年にわたって、環境に悪影響を及ぼす要因の一つとして悪評を重ねてきた。特に、マイクロプラスチックに代表される、海洋プラスチックの汚染が取り上げられてきた。日常的に個人が消費・使用するコンシューマ製品は、海洋に流出し、時に廃棄され、海洋環境に大きな影響を与えてきた。海洋プラスチック汚染は、海洋生態系に悪影響を及ぼし、魚や鳥などの生物に被害を与えてきた。プラスチックは長期間分解されず、マイクロプラスチックとして海洋中に広がり、生態系に取り込まれる。また、地球規模のプラスチック廃棄物問題として廃棄物の増加が挙げられる。これらの廃棄物が埋立地や焼却施設に負担をかけ、地球規模の廃棄物問題を引き起こしている。プラスチックの製造、使用、廃棄物処理にはエネルギーと資源が必要で、それに伴う環境負荷が大きい。



伊藤浩志
SPE 日本支部長

これらの問題に対処するために、世界中の国や団体がプラスチックの使用削減、リサイクル、再利用の取り組みを進めている。また、持続可能な代替材料の開発やプラスチックごみの回収と処理の改善も重要である。我々個人としても、プラスチック廃棄物を適切に分別し、リサイクルを促進し、プラスチックの使用を削減することが環境保護に貢献する一つの手法である。これらプラスチックの資源循環は、プラスチック製品のライフサイクル全体にわたる持続可能な資源管理と廃棄物削減を目指す様々なアプローチや戦略が必要である。例えば、プラスチック廃棄物の削減するため、使い捨てプラスチック製品の使用を減らすことも重要である (Reduce)。また、プラスチックのリサイクル (Recycle) の更なる取り組みとして、プラスチック廃棄物をリサイクルするための適切な施設を設け、リサイクル率を向上させるとともに、消費者にリサイクルの重要性を啓発し、プラスチックの廃棄物管理と再利用 (Reuse) を徹底し、分別収集プログラムを支援することも必要不可欠になる。また、バイオマス由来、生分解性プラスチックの推進も依然として重要であろう。環境に優しいバイオプラスチックの研究・開発を促進し、従来のプラスチックの代替品として採用する。

この実現には教育と意識の向上が必要である。消費者に対して、プラスチックの問題とその解決策について教育を行い、プラスチックに対する意識を高める。持続可能な生活様式を奨励し、プラスチック削減への協力を促すことも教育機関のミッションと考える。地域や国によって適用される解決策は異なるが、包括的なアプローチが必要である。プラスチック問題に対処するためには、我々消費者を含む、国、産業界、教育機関が連携協力し、持続可能な未来社会のために取り組む必要がある。

この8月に内閣府主導で、戦略的イノベーション創造プログラム (S I P) 第三期「サーキュラーエコノミーシステムの構築」研究開発プロジェクトが開始した。ここでは、プラスチックのサーキュラーエコノミー (Circular Economy) のシステム構築を目的として、プラスチック製品の生産、使用、廃棄物処理において、持続可能な資源管理と廃棄物削減を促進し、プラスチック資源を循環させる経済モデルを提案することにある。ここでは、プラスチック製品の寿命を延ばし、製品や材料をできるだけ多く再利用、リサイクル、または再生産することを中心に展開されていく。プラスチックのサーキュラーエコノミーは、環境への負荷を最小限に抑え、有限のプラスチック資源を効果的に管理するための取り組みとして、世界中で推進されている。多くの国や地域がプラスチック廃棄物の削減と持続可能なプラスチック管理のための規制を導入しており、プラスチックのサーキュラーエコノミーの実現に向けた努力が続いている。

プラスチック技術者 (Society of Plastics Engineers) 日本支部は、プラスチック、これに関連する産業分野や加工技術のプロフェッショナル技術者が集まっている。今後も、時代に沿った研究・技術の講演会等を通じて、プラスチック分野の最新・最先端研究や技術の話題を提供していく。今後とも、強固な会員ネットワークのもと、相互研鑽と会員のブレークスルー実現に向けて、着実に活動していく所存である。本分野に携わる多くの技術者の SPE 日本支部への参画をお待ちしている。

2022 年度 日本支部活動

多くの講演者様のご協力もあり、年間で6回の講演会を実施いたしました

2022年8月9日

サステナブルプラスチック新素材・加工技術開発の取り組み

バイオマスプラスチック材料・製品開発について	(株)事業革新パートナーズ	茄子川 仁
セルロース繊維複合樹脂の家電への適用	パナソニック(株)	福島 直弥
ナノセルロースの特性を活用した複合材料開発	産総研中国センター	遠藤 貴士

2022年10月21日

海洋で分解する高分子

生分解性素材は海洋ごみ問題の Solution となる？ ～循環型社会の形成に貢献するバイオマスプラスチック～	三菱ケミカル(株)	佐野 浩
熱可塑性高分子の環境分解に及ぼす高次構造の影響	九州大学	高原 淳
高分子材料の超促進耐性評価	(一)化学物質評価研究機構	飯塚 智則
生分解性高分子のレオロジーおよび熱分解	ティー・エイ・インスツルメント・ジャパン(株)	高野 雅基

2022年12月10日

環境に配慮したプラスチックを目指して ～資源循環・リサイクル～

炭素循環に資するプラスチックリサイクルと動静産業界連携の可能性	東北大学	吉岡 敏明
捨てるという概念を捨てよう！	テラサイクルジャパン	エリック カワバタ
ポリエチレンのケミカルリサイクル実証について	PS ジャパン(株)	小林 昌史
バイオ技術によるプラスチックのケミカルリサイクルの可能性	積水化学工業(株)	小間 聡

2023年2月9日

第16回 NANO/SPE 合同講演会

粘着・剥離現象の可視化とモデル化：性能予測に向けて	東京大学	山口 哲生
易解体性接着と異種材料接合の課題解決へのアプローチ	大阪公立大学	松本 章一
金属表面微細構造を利用した金属樹脂直接接合技術	東京大学	梶原 優介
車載向け UV 硬化型シール技術の開発	(株)デンソー	岡本 真一

2023年4月21日

自動車プラスチックの塗装と接着

将来モビリティの接着接合	金沢工業大学	影山 裕史
マルチマテリアル化に貢献する接着力と応力緩和性を両立する新規エポキシ樹脂の開発とその先にある易解体機能に関する研究紹介	DIC(株)	有田 和郎
難接着性ポリオレフィンへの付着技術の経緯と今後	山形大学	小林 豊
未処理ポリオレフィンへの接着技術	東ソー(株)	白木 慶彦

2023年6月16日開催

未来を担うエレクトロニクス分野の機能材料

樹木ナノセルロースからつくる半導体ナノ材料：3D 構造設計・電気特性制御と応用展開	大阪大学	古賀 大尚
シクロオレフィンポリマーの特性とエレクトロニクス用途への応用	日本ゼオン(株)	古国府 明
5G と 6G 通信関連の材料開発状況とその誘電測定法	(有)川崎テクノリサーチ	芹澤 肇
フッ素材料と次世代通信への取り組み	ダイキン工業(株)	加藤 雅己

2022 年度役員 (2022/7-2023/6)

役割	氏名	所属
支部長	伊藤 浩志	山形大学
副支部長	辻脇 伸幸	積水化成品工業(株)
副支部長	川崎 真一	(株)KRI
副支部長	齊藤 卓志	東京工業大学
幹事	小林 豊	山形大学
幹事補佐	西辻 祥太郎	山形大学
カウンセラー	澤 周作	(株)テクノベル
会計担当	及川 昭	住友ベークライト(株)
会員担当	仙波 健	(地独)京都市産業技術研究所
会員担当補佐	金 容薫	古河電気工業(株)
広報 NL 担当	梅田 杉也	(株)テクノベル

役割	氏名	所属
Web 担当	田代 昌秀	MSAI
企画	飛鳥 一雄	日本ポリプロ(株)
企画	曾根 篤	日本ゼオン(株)
企画	柴田 幸樹	東洋製罐 GHD (株)
企画	加藤 真理子	大阪ガスケミカル(株)
企画	佐藤 公俊	国士舘大学
企画	米村 真実	旭化成(株)
監事	馬場 文明	三菱電機(株)
監事	葛良 忠彦	包装科学研究所
相談役	伊澤 槇一	ナノ構造ポリマー研究会

2022 年度決算報告 (2022/7-2023/6)

損益計算書			
収支の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
入会金	0	本部年会費	0
支部年会費前受	660,000	米国送金手数料	0
支部年会費	260,000		
本部リベート	0		
例会、セミナー	445,000	例会・セミナー	605,379
		会場費	20,400
雑誌・図書代金	0	雑誌・図書代金	0
銀行利子	33	通信費	252
雑収入	0	広告宣伝費	300,000
		旅費交通費	0
		事務用品費	0
		雑費	2,712
小計	1,365,033	小計	928,743
		今期収支差額	436,280
前期繰越金	3,647,953	次期繰越金	4,084,233

SPE 米国本部活動について

SPE 2022
ANNUAL REPORT

SPE 米国本部 2022 年度活動について確認できます。

Journal Publications, Foundatoin, Finance Review や Award などの情報がご覧いただけます。

https://www.4spe.org/files/leashipdocs/SPE_AnnualReport22.pdf



SPE が主催する ANTEC 2024 が、2023 年 3 月 4 日から 7 日まで米国セントルイスにて開催。このイベントでは、最新のプラスチック分野における先進的な学術研究が発表されます。産業界の最新動向を把握し、競争力強化につながる情報やネットワーキングの機会に。

<https://www.4spe.org/i4a/pages/index.cfm?pageid=8330>